

校長室の窓から **No.57**

☆☆☆☆☆五城目町立五城目小学校 校長室だより 平成29年10月13日(金)

学習の充実期を迎えて

～【学校や地域の話で語り合い 将来の夢 家族でえがく】～

朝夕の冷え込みを肌で感じる季節を迎えました。ここ「あさひ台」から眺める太平の嶺々が色鮮やかに染まり、そのコントラストに思わずシャッターを押してしまいたくなるほどです。

さて、2学期はいよいよ学習の充実期となります。今月28日には各学年がこれまで学習してきた内容の一部を体育館ステージで発表するほか、11月には教員の授業研究会、12月6日には4・5・6年生を対象とした秋田県学習状況調査（4年：国語、算数、理科 5・6年：国語、社会、算数、理科）などが行われます。子どもの学びに向かう力を育む大切な時期ですし、次の学年につながる重要な期間となるからです。

2学期早々、五小っ子は6年生を筆頭に学習発表会テーマ「一致団結 最高の舞台で大切なものを伝えよう」に向かって、協働しながら物事をつくりあげていこうと意気込む姿が見られます。各学年で何を、どのような姿で伝えるのか、28日の発表が楽しみです。教職員はまた、そうした力を国語や算数、社会科や理科、それに家庭科や総合などの学習活動にもこれまで以上に生かしていこうと日夜、授業づくりに励んでいます。保護者の皆様にはどうかご家庭で、学習発表会や勉強している内容について対話の時間を設けたり、一緒になって宿題をやってみたりしながら、お子さんの学びに向かう力を高められるよう後押ししていただきたいと思っています。

【全国調査の結果から】

さて、本校6年児童の全国学力・学習状況調査については、7月のPTA全体会や保護者面談等でもお知らせしてありましたが、その概要（確定版）を一部紹介いたします。

国語と算数のA問題は主として知識を問うもので、B問題は思考力・判断力・表現力など主として活用する力を問うものです。特にB問題は、これからの時代を生き抜いていくために求められる能力として重要視されています。情報化・グローバル化・人工知能等の開発が進む現代社会では、学び続けていく意欲と学んだ知識を活用したり組み合わせたりしながら課題解決を図る行動力や創造力等が求められているからです。すでに、就職試験や大学入試、高校入試や中高一貫校の試験で、説明力・コミュニケーション力を問う課題が増えています。小学校の調査問題でも、必要な情報を取り出して解を求め、根拠や理由を記述する問題が出されています。

東日本大震災で中止となった平成23年度を除き、10回連続で全国トップレベルの結果となった秋田県。本校は県平均とほぼ同等、国平均をいずれも上回る良好な結果でした。しかしながら、次のような理由から、この結果はあくまでも学習状況の一つの結果にしか過ぎないものと捉えています。引き続き、五小っ子の10年後20年後を見据え、生き抜く力につながる学校経営を目指してまいります。

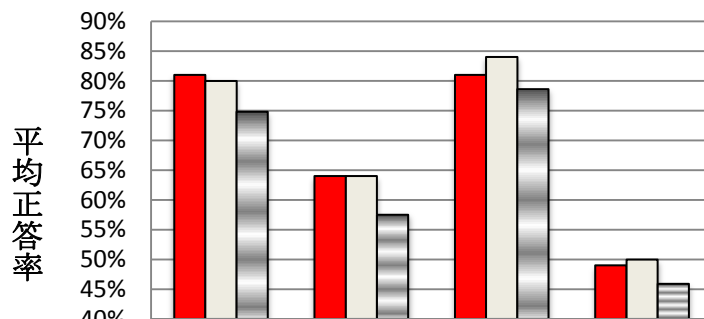
- ① 調査により測定できるのは子どもの学力の特定の一部分であること
- ② この調査は学校における教育活動の一側面であること
- ③ この調査の目的は、都道府県別及び市町村・学校別平均に視点を置いて序列化するものではなく、また学校間の競争を行うものでもないこと
- ④ この調査は、子ども一人一人の学習の状況を見取り、その子どもの課題に対応した学習活動を探り、学校として子どもの学習状況の改善等につなげるものであること etc

- 創立(143周年)
明治7年5月7日
- 児童数 278名
(H29.10.1日現在)
- 教職員数 45名
文責：校長 戸部裕隆



※スマートフォンからご覧になることができます。

H29全国学力・学習状況調査結果

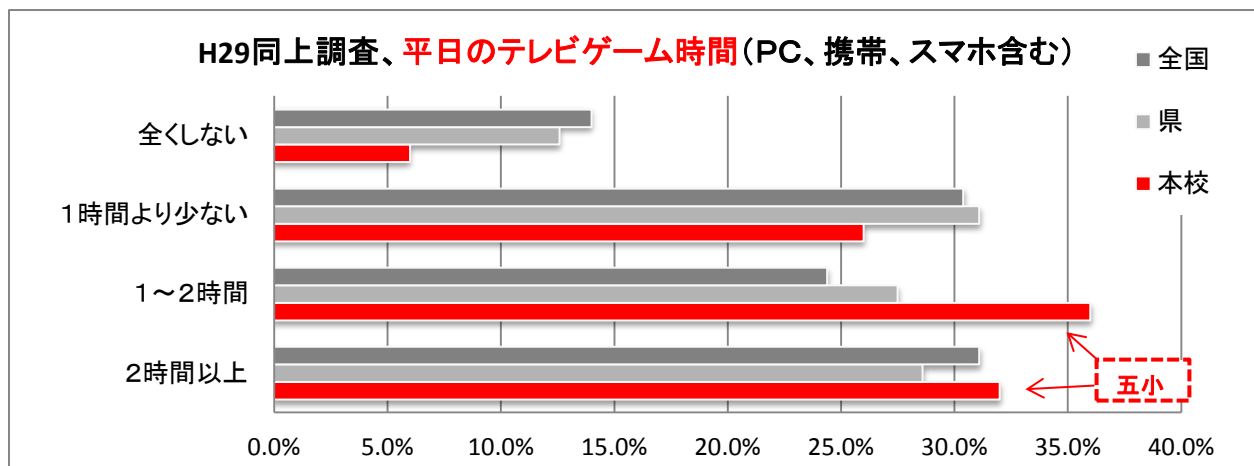
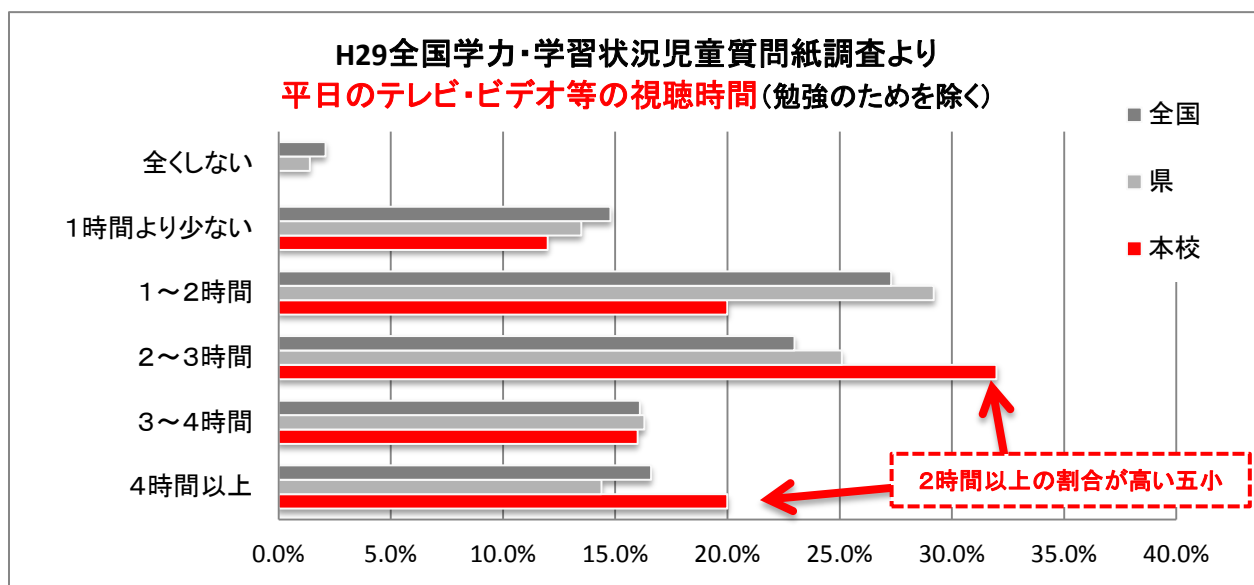


■ 本校	国語：県とほぼ同等、国より↑。算数：県より若干↓、国より↑			
□ 県(公立)	80%	64%	84%	50%
■ 全国(公立)	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

子どものメディア視聴・利用時間と学力

文部科学省は平成26年度に、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの利用時間が長い子どもほど、学力テストの平均正答率が低い傾向にあると発表しています。テレビゲームやインターネット利用の時間と学習状況調査結果には相関関係があることが明らかになったからです。このことは2年前の本校PTA研修講話でも紹介されました。勉強のために視聴・利用する時間は除かれていますが、成績が低下している子どもは「メディア利用の長時間化」以外にも「朝食を食べない」「睡眠時間が不足している」などとの相関も指摘されています。

本校児童のメディア視聴・利用も課題ですが、国や県と比較した場合はどうでしょうか。



メディアの使い方、家族ぐるみの取組に期待！

民間の教育総合研究所によれば、たしかにインターネットやメールの利用時間が長くなると成績にマイナスの影響を与えると分析しています。しかし、メディアの利用時間が短くなったからといって成績が上がるものではなく、加えて、どのような学習態度をもっているかのほうが成績に対してより影響力があるとまとめています。

本校児童のメディア利用・視聴については、まもなく配付される第1回学校運営アンケート結果でも全学年の課題ともなっています。今の世の中、生活の中でメディアとどう向き合っていくかが問われる時代であることは間違いありません。家庭や学校において、子どもの発達段階に応じていかにメディア利用時間を管理、規制するかという視点は大きなポイントになるでしょう。特に、子どもがどのように学習をして、どのようにメディアを利用していったらよいのかという視点から、メディアの「適切な使い方」を共に話し合っていく必要を感じます。メディアを長時間視聴・利用してしまいがちな五小っ子には、学校でも継続的に指導してまいります。家族ぐるみで取り組まれることに大きな期待を寄せています。